

官民連携による まちの賑わい再生

～自治体職員によるワークショップをふりかえって～

国土交通省 中国地方整備局
建政部 都市・住宅整備課
令和4年 3月

はじめに

1. 過去のワークショップについて

2. 令和3年度のプログラム

3. 視察会の概要

4. 第1回ワークショップの概要

5. 第2回ワークショップの概要

6. おわりに

はじめに

本資料の位置づけ

中国地方整備局では、各地方公共団体の実情を踏まえながら、まちの賑わい再生に向けた取組を一つでも実現するため、可能な限りの技術的な支援を実施したいと考えています。

令和元年度及び令和2年度には、地方公共団体職員を対象としたワークショップを開催し、各団体の抱えている課題について、まちづくりの専門家も交えて意見交換を実施する機会を設け、多くの団体の方々に参加をいただきました。

令和3年度は、まちづくりの取組を具体的にイメージしていただくため、上記のワークショップに参加され、具体的な取組を進めておられる竹原市にもご協力いただき、賑わいづくりに向けた社会実験を視察する機会を設けるとともに、まちづくりの専門家を交えたワークショップの開催を行いました。

本資料はその視察会やワークショップにおける専門家からのレクチャーや参加者による意見交換の結果を総括し、まちの賑わい再生にあたってのヒントとして取りまとめたものです。視察会やワークショップに参加いただいた方、参加いただけなかった方も含め、今後の取組を推進するにあたり、本資料が検討の一助になれば幸いです。

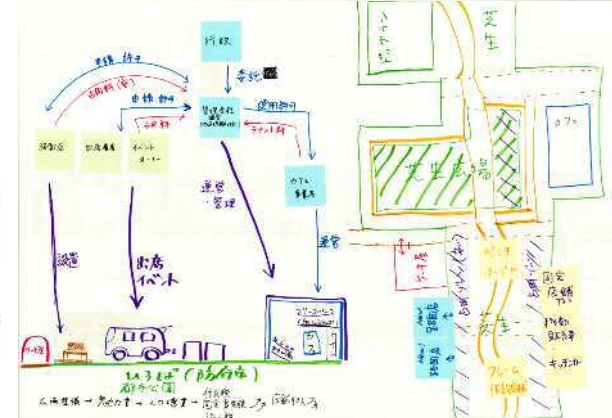
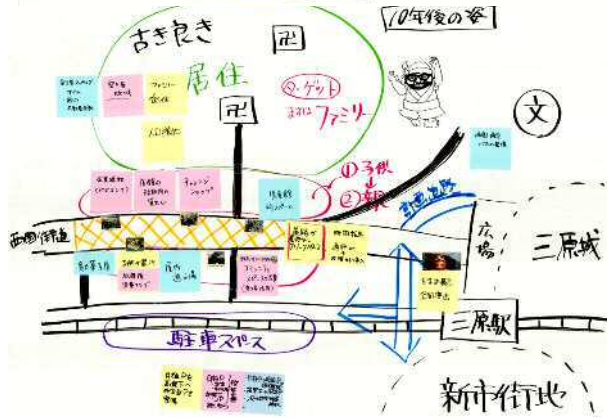
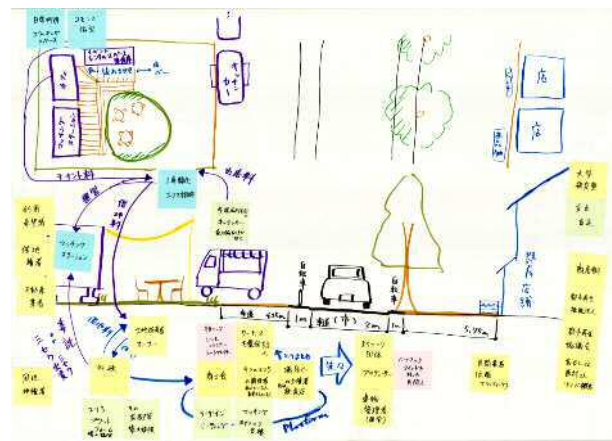
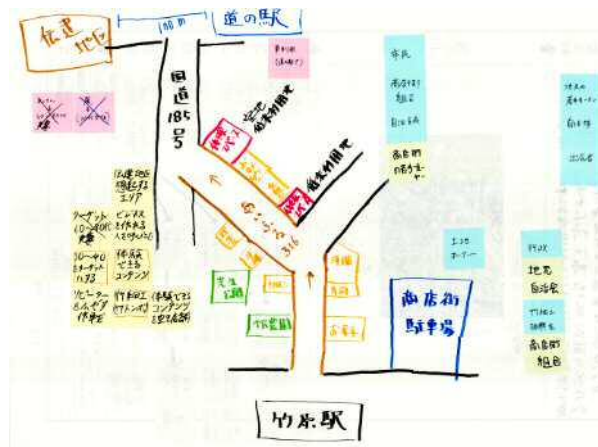
令和4年 3月
中国地方整備局 建政部
都市・住宅整備課長

1. 過去のワークショップについて

1. 過去のワークショップについて

令和元年度のワークショップ

- 低未利用地の活用をテーマに、具体的な場所を取り上げながら、取組内容やそのスキームなどに関して、自治体相互にグループディスカッションを実施
- 中国地方整備局管内から16団体の方に参加をいただき、いくつかの自治体はその後具体的な取組に発展(竹原市が好事例)



1. 過去のワークショップについて

令和2年度のワークショップ

- 低未利用地に加え公共空間(道路占用許可の緊急緩和など)をテーマに加え、オンラインにてグループディスカッションを実施(3団体の参加)
- 自治体が抱える課題に対して、専門家からアドバイスをを行い、取組を支援

(別紙3) 令和2年度ワークショップの開催概要

官民連携による 公共空間などの活用方策

— 自治体職員によるワークショップをふりかえって —

まちづくりの専門家を交え、オンライン形式を基本としたワークショップを開催しました。3つの自治体に参加いただき、各自自治体の抱える課題解決に向けた取組について、意見交換を実施しました(参加自治体担当者に聴講者も加え、全3回を通して述べ58名の参加)。

2021(R3) 1/2 宇部市 取組

宇部市の概況
人口: 約16.5万人
気候: 温暖
企業: 宇部製薬等
大学: 山口大学(医・工)

宇部市の公共空間及び低未利用地活用について

配置 → 所有と利用の分離
低未利用地 → まず利用 → マネジメント

重要ポイント
★ 目に見えない活動、努力
★ まちづくり実行委員会

活動
① まちづくり活動(若者のイベント)
② 広島市、竹原市にも開拓
③ 専門: 都市デザイン・アーバンデザイン・都市計画学 建築

展望
中央町グラウンドデザイン「Open City Ube」(ビジョン)作成

竹原駅前エリアの「ウカガシ」まちづくりについて
1. ウカガシビジョンの策定
市民連携による「小さなまちづくり」
駅前エリア全体の魅力が低下
空き店舗の増加

2. 試行的な取組(社会実験)
馬路と公園の間に
人いき、バモロ、パルレ、テリアット
電ポロ → 今までのような
居住者の良い空間
照明大事(夜ふライトアップに苦勞)
実践者の声
前向きな物
作らせた!

3. おわりに
① 居住者の良い滞在空間大事
日常的な取組 → セミナーに反映
② 社会実験(ビジョン策定!!)
ぜひやって下さい

宇部市 ウカガシ実行委員会
馬路エリア(任意団体)
構成メンバー: 地・境・住・民、民間事業者、観光協会、ホテル、まちづくり会社、行政職員
アドバイザー: 宋先生

新築コロナウイルス感染症対策について
利用可
参加: 21<12居
店が9居
前回(HIS) → 今回
多世代交流スペース
コンテができて
歩道を使ったイベント: 水曜日の会
少人数で歩いておこなう
整備
日常的にできる
電点、排水
そして「思い」
「整備」
「活用」
「9:1」
「思い」
「整備」
「活用」

STEP 1 学び (R3.1.12) ライブ配信

STEP 2 ワーク (R3.2.9/2.26) オンライン

STEP 3 気づき

A市	B市	C市
●活用する場所でのどんな行動が大事 → 1. 整備は時間がかかるが、 2. 住みはわり考えていたが、 3. 住居の増えが心配である ことがわかった	●使いたい場所の良さを 依存してはダメ ●住みはわり考えていたが、 別の考え方も必要である ことがわかった	●行政目標どと気がつく ポイントも学べた ●他市のテーマに似た場所 が市にもあり、今後の参 考になった
●事例から学び、できること とから考えていきたい	●山手ロードも高い ワークショップだった	●考えた内容を来年の社 会実験に取り入れてたい

令和3年3月 国土交通省中国地方整備局 建設部 都市・住宅整備課

2. 令和3年度のプログラム

2. 令和3年度のプログラム

公共空間や低未利用地の活用に関して

- 中国地方では、人口減少に起因する中心部も含めた都市の賑わい低下が喫緊の課題
- 各団体における取組推進が望まれる一方、各団体ともに人的・財的資源が厳しく、官民が連携した取組を積極的に展開していく必要がある
- 特に今般のコロナ禍を受け、人が集まる事の価値観や空間へのニーズが変化してきており、これらの空間活用についてもより柔軟な対応が求められる
- 様々な知見や事例をインプットしながら、取組を僅かでも形にし、上手くいくまで調整・継続することが何より重要であり、現地視察やワークショップを通してノウハウを身に付けていただき、各団体による具体的取組の実施を期待



2. 令和3年度のプログラム

視察会とワークショップの開催

- 過去のワークショップに参加いただいた竹原市が具体的な取組を進めていることから、専門家の講義ならびに竹原市における**社会実験の視察**を実施
- 取組を前に進めるにあたり直面している課題に対して、ワークショップを通して**まちづくり専門家からアドバイス**をいただき、**取組の実行につなげていただく**

R3.10.8 視察会【社会実験（竹原市）の視察】

- ・ 専門家の講義を受け、賑わい再生に向けた**全国の取組を知る**。
- ・ 過去のワークショップ等をきっかけに、具体的な取組を進められている竹原市の内容を視察し、**取組を身近に感じていただく**。

R4.2.28 第1回WS【課題解決に向けたワークショップ】

- ・ 専門家の講義を受け、狙うべきターゲット・ペルソナの考え方を知る。
- ・ ターゲット・ペルソナを想定しながら、**地域の課題を解決するための取組**についてワークショップを実施（オンライン形式）。

R4.3.9 第2回WS【ワークショップの深度化】

- ・ 第2回の議論をベースに議論を深めつつ、**各自治体の来年度以降のアクションに資する内容**について、ワークショップを実施（対面・オンラインの併用）。

2. 令和3年度のプログラム

ワークショップでは3つのグループワークを実施

第1回WS

グループワーク① 【問題点・課題・アクション・ペルソナ・アクティビティ】

- ◆対象地の活用が進んでいない潜在的な**問題点**や活用に向けた**課題**を整理する
→対象地が抱える問題点は何か？ 対象地の活用に向けて何が課題なのか？
- ◆課題の解決に必要な**アクション**、対象地の**ペルソナ**と**アクティビティ**を考える
→どのような取組が必要か？ その場所を誰にどのように使ってほしいのか？

第2回WS

グループワーク② 【ビジョン・プラン】

- ◆対象地の目指す**ビジョン**（将来像）や**プラン**（空間の設え）を検討する
- ◆具体的な**アクション**（短期・長期の取組）を考え場所に落とし込む
→その取組を場所に落とし込むと、どのようなビジョンやプランが描けるか？

グループワーク③ 【仕組み】

- ◆短期のアクションについて、**プレイヤー（主体）**や**役割**、**体制**を設定する
- ◆行政としてできる支援・関わりを考える。
→短期のアクションを実行し、継続的に運営するために、誰がどのような体制で進め、ステークホルダーがどのような関係性であることが必要か？

2. 令和3年度のプログラム

視察会・ワークショップに参加いただくまちづくり専門家



ソングンファン

宋 俊煥

山口大学大学院創成科学研究科 准教授

博士(環境学)/アーバンデザイン/エリアマネジメント/東京大学大学院博士課程修了。
東京大学特別研究員(JSPS)・山口大学助教を経て現職。株式会社にごわい宇部取締役(非常勤)や宇部市中心市街地活性化協議会委員等を務める。エリアマネジメントの取組の重要性を問い、まちに根付いた活動を展開。代表的なものに「若者クリエイティブコンテナ(宇部)」があり、研究の傍ら実践的にまちづくりに従事している。



うじはら たけひと

氏原 岳人

岡山大学学術研究院環境生命科学学域 准教授

博士(環境学)/都市計画/地域マネジメント/岡山大学大学院博士課程修了。
ポートランド州立大学客員研究員・岡山大学大学院環境学研究科助教などを経て現職。
「環境制約・人口減少下で求められるサステナブルな都市・地域・国土計画、人間活動について探究する」をテーマに、地域のマネジメントやコンパクトシティ、中心市街地活性化や地域防災などの幅広いテーマに取り組む。「世界のコンパクトシティ 都市を賢く縮退するしくみと効果」などを執筆。



3. 視察会の概要

（専門家からの話題提供、社会実験の視察）

令和3年 10月 8日
会場：道の駅たけはら 地域交流スペース
（対面を基本にオンライン配信を実施）

3. 視察会(令和3年10月8日)の概要

専門家からの講義 & 現地視察

第1回WSのプログラム

(竹原市会場・オンライン配信の併用)

- 公共空間や低未利用地活用の事例や
取組のポイント
(まちづくり専門家：宋先生より)
- ウォーカブルなまちづくり（竹原市版）について
(竹原市担当者：伊藤氏より)
- 現地視察
(Park(ing)Day竹原2021)



宋先生

- やりたいことを決めて冷めないうちに試すことが大事
- やりたいことが決まれば、ステークホルダーの顔が見えてくる



竹原市 伊藤氏

- イベントではない、日常の変化を意識することが大事
- 社会実験を通して小さな変化を積み重ね、まちの将来像を共有

▼講義の様子 (宋先生による講義)



▼視察の様子 (竹原市での社会実験を視察)




3. 視察会(令和3年10月8日)の概要

やりたいことを決めて冷めないうちに試すことが大事

▼公共空間や低未利用地活用の事例や取組 (宋先生レクチャー概要)

- 南池袋公園や北3条広場のロールモデルが参考になるのでは
- 緩やかな勉強会でビジョンを作り、冷めないうちに社会実験を通して試してみる
- やりたいことを決めると、自ずとステークホルダーが見えてくる など

公共空間や低未利用地活用の事例や取組のポイント
Lecture 1



宋俊煥氏
山科大学大学院
創成科学研究科
准教授

公共空間とは

- ① 行政の管轄
- ② 自由空間
- ③ 都市基盤

官民連携、協力 (PPP) の重要性

利用... 管理者の観点
使用... 最低限の質
活用... ユーザーの観点
社会的、地域的な課題を(長期的・戦略的に)解決することを目的

デザイナーへの報酬、デザイナーのマネージャー

目指すべきロールモデル

1 南池袋公園(東京) 良質な芝生空間の維持・管理
● 様々なアクティビティが共存、多様性
官民連携のマネジメント手法がポイント

2 北3条広場(おぼろ) ビジネスが生まれる
● 空間を使いこなすしくみ⇒移家げる

社会実験 #カミハキテル(広島) ⇒ 地域ビジョンづくり

- STEP1 関心のある人のゆるやかな勉強会の実施
- STEP2 ステークホルダーの気軽に参加できる組織の形成
- STEP3 民間主導による地域ビジョンづくり

ポイント1 高質なデザイン性の追求 (アクションからビジョンを確める)

ポイント2 コンテンツリード型 場づくり

ポイント3 公共空間を民間のビジネスチャンス の舞台へ (CSRからCSVへ Creating Shared Value)

ポイント4 調査結果の共有と次のアクション・ビジョンに反映

若者のクリエイティブコネテナ(山口県宇部市)

(人口16万人 ⇒ 行政が主導)

STEP1 先払い空き家⇒撤去
低未利用地⇒整備 (行政主導で官・民と連携)

STEP2 出来たしびふ広場⇒「とらあず」試してみる (矢張り合いとチーム形成)

STEP3 しくみづくり(南池袋公園に倣って)

ポイント1 みんなで力を合わせて1つの事業を実現

ポイント2 「とらあず」試してみようが蓄積⇒新しいビジョンづくり

しびふ広場の前にある常盤通りを「可変性」を持ち続けるストリートへ

国の制度活用 ⇒ よりよく!
公共空間マネジメント手法

公共空間の活用はなぜ重要?

家から出た5分
すぐ公共空間
そこをよりよく
QOL(生活質)上がる

やりたいことを先に決める
だれか必要かを考える
負担分散を考えると
ネットワークを構築し、専ら局と実働に分ける!

2021.10.8(金) 公共空間や低未利用地の活用に関する視察会

3. 視察会(令和3年10月8日)の概要

社会実験を通して小さな変化を積み重ねて、まちの将来像を共有

▼ウォーカブルなまちづくり(竹原市版) (竹原市伊藤氏レクチャー概要)

- イベントではなく小さな変化でも日常を意識する
- 社会実験を通して、地域と将来像を共有する
- 沿道商店への波及については、滞留時間を意識した社会実験が重要 など

ウォーカブルなまちづくり 竹原市版

竹原市 都市整備課 伊藤氏

竹原市 ビジョン策定の背景

- 人口: 2万6千人 (↓減少傾向)
- 観光入込客数: 91万人
- 駅前エリアが空白...
- 地価も20%ほど低下
- 居住地の周辺空間へ
- 小さな目に見えるまちの変化を感じるまちづくりへ

市民連携による小さなまちづくり ビジョン策定のポイント

- ① (大きな夢物語ではなく) 努力すれば実現できるもの
- ② (先にビジョンつくとプレイング) 一糸にビジョン策定 → 実行性、責任あるビジョン
- ③ 社会実験をして将来像を検討

社会実験のポイント

- ① Parking Day をまちづくり活動の目標に
- ② 日常を意識 (的なまちの風景) ウォーカブルなまちづくりに取り組む市民
- ③ 市民に愛されるビジョンとして 試行的な取組として 地域に合った
- 県内一歩に Walkable Day!
- 中国地整管内一歩 ウォーカブルに!

地域の人々が 未来像の共有 高年齢者も笑顔に

▼竹原市での社会実験のスケジュール

人集め	<ul style="list-style-type: none"> ● 商店街、関連事業者、地域住民など企画参加者の声掛け ● 運営支援のコンサル選定 (規模が小さければ不要) 	4カ月前
概要検討	<ul style="list-style-type: none"> ● 開催日、開催日数、開催時間帯の設定 (特に、夜間実施するかどうか) ● 実施場所の選定及び実施方法の検討 (歩行者天国、歩道・停車帯等) 	3カ月前
企画検討	<ul style="list-style-type: none"> ● 集中企画研修(2日間)により企画コンセプト、什器配置などの企画骨子を検討 ● WEB会議等で、必要什器の選定・購入担当者・金額等を協議し調整 <p>※対外的な説明に使用できる企画書を作成</p>	1~2カ月前
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内、地元商店街、地元自治会等へ企画内容を説明し、協力を要請 ● 道路管理者などへ交通規制や来訪者用駐車場などについて協議 	0.5~1カ月前
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 当日参加できる人員等を踏まえた、調査内容の検討 ● 歩行者通行量、立寄率調査、滞留時間、来訪者アンケートの準備 	0.5~1カ月前
広報	<ul style="list-style-type: none"> ● 概ね1週間前にプレスリリース、広報、SNS等で情報発信 ● 想定されるターゲットは特に念入りに! (子ども園、小学校、子育て支援施設) 	1週間前
準備	<ul style="list-style-type: none"> ● 準備の負担が大きい場合は、前日から準備作業を実施 ● 調査の準備物、印刷物の確認、必要に応じてカラーコーン等の設置 	前日
当日	<ul style="list-style-type: none"> ● 各ゾーンでの監視作業、消毒作業、アクティビティ調査の実施 ● 参加者もしっかりと場の雰囲気を楽しむ 	当日
ヒアリング	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会実験実施後に、沿道店舗にアンケートとヒアリングを実施 ● 特に、営業上支障が生じたか、店舗の売りに影響が出たかなどは重要 	後) 1週間以内
報告会	<ul style="list-style-type: none"> ● 参加者による振り返り、良かった点・改善点・想定外の効果など ● 調査結果のとりまとめが終わったのち、商店街理事会等への報告会 	後) 1週間~1カ月

3. 視察会(令和3年10月8日)の概要

日常を意識した、道路空間・低未利用地活用の社会実験を実施

▼竹原市現地視察(宋先生・伊藤氏説明、実施主体インタビュー、グリスロ試乗)

- 車道や停車帯等の道路空間を活用した居心地の良い滞留空間の創出
- 民間の空き地や駐車場等の低未利用地を活用した多世代の滞留・交流拠点の創出
- 新たな移動手段により、歩行者と親和性の高い移動しやすい交通環境の構築

▼車道の一部が子どもの遊べる空間に



▼空き地が“リビング”のような空間に



▼空き地がノスタルジックな雰囲気空間に



▼グリスロモビリティの実験走行



▼飲食や休憩に利用できるスペース



▼沿道商店街での買い物を促すしかけ



▼駐車場が気軽なスポーツ空間に



▼実験運営に関わる人へのインタビュー



3. 視察会(令和3年10月8日)の概要

竹原市における社会実験の概要(当日はこの内容を視察)



3. 視察会(令和3年10月8日)の概要

視察会参加者の感想など

Q. 視察会に参加して気づいたこと・発見したことは？

- ・誰かがまちを作るという「まちづくり」ではなく、自分達がまちを使うという「まちづかい」にしていくことがやはり大事だと感じた。
- ・最初から大きな目標やビジョンを描くのではなく、まずは**どんなことをやってみたいか・どんなことならできるか**を積み重ねるところが大切だと感じた。
- ・ビジョン等の策定において、行政主導で策定してから市民等の意見を聞くのではなく、**ビジョンの策定段階から勉強会など開催**し、市民やまちづくり団体等と計画を作り上げることで、それぞれが**やりがいや責任感を持って参加**できると感じた。また、社会実験をした後のフォローアップや実施結果の**フィードバックが大切**であり、これを繰り返すことでより良い取組に仕上がっていくものと感じた。

Q. 専門家などによる講演で印象に残っているものは？

- ・**アクション（社会実験）からビジョンを確かめる**。その繰り返しのプロセスが大切であることが分かりました。
- ・「とりあえず、やってみよう。やってみることで新たなビジョンに繋がる。」という言葉がとても印象に残りました。**計画だけで終わらずに、実行してみることで将来を見通すことができる**ということ、今後まちづくり等を計画するうえで意識しようと思います。

Q. 現地の視察で印象に残ったものは？

- ・**子供が遊べる空間**とすることで、**日常的に賑わいを感じる空間**となっていた。社会実験を続けることで、隣接する店舗の内容が変化する、テナントが新たに入ってくるなど、地域全体が活性化していく未来を感じ取ることができました。
- ・**「外部からの訪問者でなく、周辺住民の満足度が高い」**という話が大変印象に残っており、それが具体化されていたことが印象的でした。また、大学生がとても積極的に素晴らしい取組をなさっているのも印象に残りました。

4. 第1回ワークショップの概要 (専門家からの話題提供、グループワーク)

令和4年 2月28日
(オンライン開催)

4. 第1回ワークショップ(令和4年2月28日)の概要

2自治体(笠岡市・米子市)を対象に、 専門家のアドバイスをもらいながら、自治体での議論を実施

第1回WSのプログラム (全面オンライン開催)

- 都市のターゲットやペルソナ設定の考え方
(まちづくり専門家：氏原先生より)
- 参加者の抱える課題と
解決に向けた専門家からのアドバイス
- 参加者でのグループワーク



氏原先生

- オープンカフェや露店など、雰囲気を提供すると人のアクティビティが促される
- 周辺住民がいる場合は、日常生活の質を高めるためのビジョンも大事
- 時間軸を意識しながらブランディング(ターゲットを絞る)する考えも重要



宋先生

- 地域の活動があれば、面白い人リストから議論をスタートさせるのもいい
- 空き店舗すべてに対応はできないので、核となる場所を決めて取組をはじめ

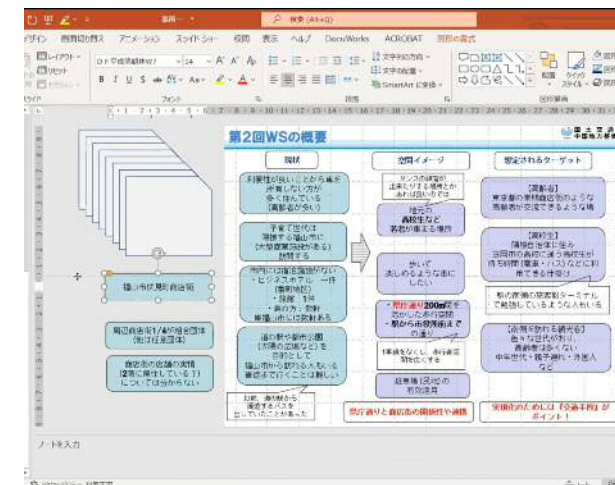
▼オンラインでの発表

第2回WSに向けた資料作成について

現況写真② 広場(公有地)の状況



▼パワーポイントを活用したディスカッション



4. 第1回ワークショップ(令和4年2月28日)の概要

いい通りの雰囲気ができる则人のアクティビティが促される

▼都市のターゲットやペルソナ設定の考え方(氏原先生レクチャー概要)

- ただ単にベンチを置くだけでは、人の行動は促されない
- オープンカフェや露店など、雰囲気を提供すると人のアクティビティが促される
- 行政が店舗構成をコントロールするのは難しいが、通りの雰囲気づくりはできる
- 年代よりも誰と来るかが大事、友人や知人グループを呼び込むと、活動が促される
- 交流動機や精神充足動機を求めて来訪する人が多い など

来訪者の滞在行動とその規定要因
——都市のターゲットやペルソナの設定のために——

① 調査の概要 (道路空間再配分⇒歩行者空間拡大した通り)

① 長野市中央通り ② 岡山市県庁通り
③ 木公山市花園町通り

② 分析の結果 (滞在行動とその規定要因)

ベンチの数 × アクティビティ ⇒ 比例しない
歩行者数 × アクティビティ ⇒ 増える!

オープンカフェ × アクティビティ ⇒ 増える!

露店、キッチンカー

自転車 + 徒歩 ⇔ 自動車 (交通手段)

店舗の雰囲気 > 歩道 / 車道 (空間評価)

年齢より、どういふグループ属性で来るか

通りの総合的な魅力の向上

2022.2.28(日) 公共空間や土地利用の活用に関するワークショップ

③ 分析のまとめ

ベンチを置くだけでは人は増えない / 車道や歩道の構造は、直接的な影響与えない

店舗構成、通り全体の雰囲気づくりが必須

自転車 ⇒ まちの回遊性向上
徒歩 ⇒ リピート数高い
バス ⇒ 滞在時間長い

年代より誰と来るか

知人・友人グループ ⇒ 滞在時間、立ち寄り店舗数UP
家族づれ、一人 ⇒ 消費金額低い

来訪動機(ペルソナ)に滞在行動は強く影響する

4. 第1回ワークショップ(令和4年2月28日)の概要

各自治体からの発表に対して、専門家からアドバイス

▼ワークショップを通して解決したい課題など(自治体による発表と意見交換概要)

- 検討の勘所をアドバイスし、以降のグループワークで具体的な解決策を議論

自治体の発表		笠岡市	米子市
	現状 問題点	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生活を支える重要な商店街であったが、大型商業施設に客層が流れて衰退 商店の後継者となる人材が不足し、空き店舗が増加 	<ul style="list-style-type: none"> かつて商店街を賑わせた「土曜夜市」の復活や、「まちなか月イチマーケット」の開催など、商店街の活性化の取組みが積極的に行われている しかし、中心市街地の事業者の高齢化などで空き店舗や空き地が点在している
解決 したい 事項	<ul style="list-style-type: none"> 市民や事業者が主体となる新たな団体の創出 商店街に限らない賑わいづくりを展開したい 	<ul style="list-style-type: none"> 空き店舗所有者へのアプローチ方法 中心にある広場の活用方法 通り全体の賑わい再生に展開したい 	

専門家のアドバイス	宋先生	<ul style="list-style-type: none"> 商店街の周辺も含めたビジョンづくりをしながら、ネットワークを広げていき、各団体の活動が繋がれるようなビジョンを作っていく へそとなる所もまだ分からないので、面白い人リスト作りからスタートするのがいいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> 空き家や空き店舗がいくつかあるようだが、どこを核にするか、中心の広場近くの空き店舗は非常に重要な気がする 面白いイベントをやれば、面白い人や店が集まってくるので、そのような人・店達を如何にかまえるかが大切である
	氏原先生	<ul style="list-style-type: none"> 遠くから人を呼び込むというよりは、周辺に住宅地もあるのでそこに住む人の生活の質を高めるためのビジョンや計画作りが重要になってくる 道路空間を、思い切って別の用途に活用してみる提案も良い 	<ul style="list-style-type: none"> エリアのブランディングをある程度の長い期間(最低5年は必要)をかけながら作っていく 思い切ってターゲットを絞ってしまう方がブランディングしやすいと思っている。ブランディングと時間軸の設定がポイントになるのではないかと思う

4. 第1回ワークショップ(令和4年2月28日)の概要

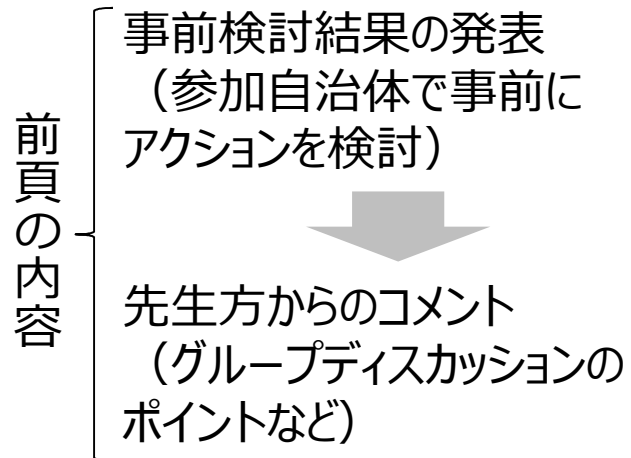
WSに向けて各自治体が事前に検討した資料を用いて議論を実施

グループ
ワーク
①

問題点・課題・アクション・ペルソナ・アクティビティ

対象地の活用が進んでいない潜在的な問題点や活用に向けた課題を整理し、解決に必要なアクション、対象地のペルソナとアクティビティを考える

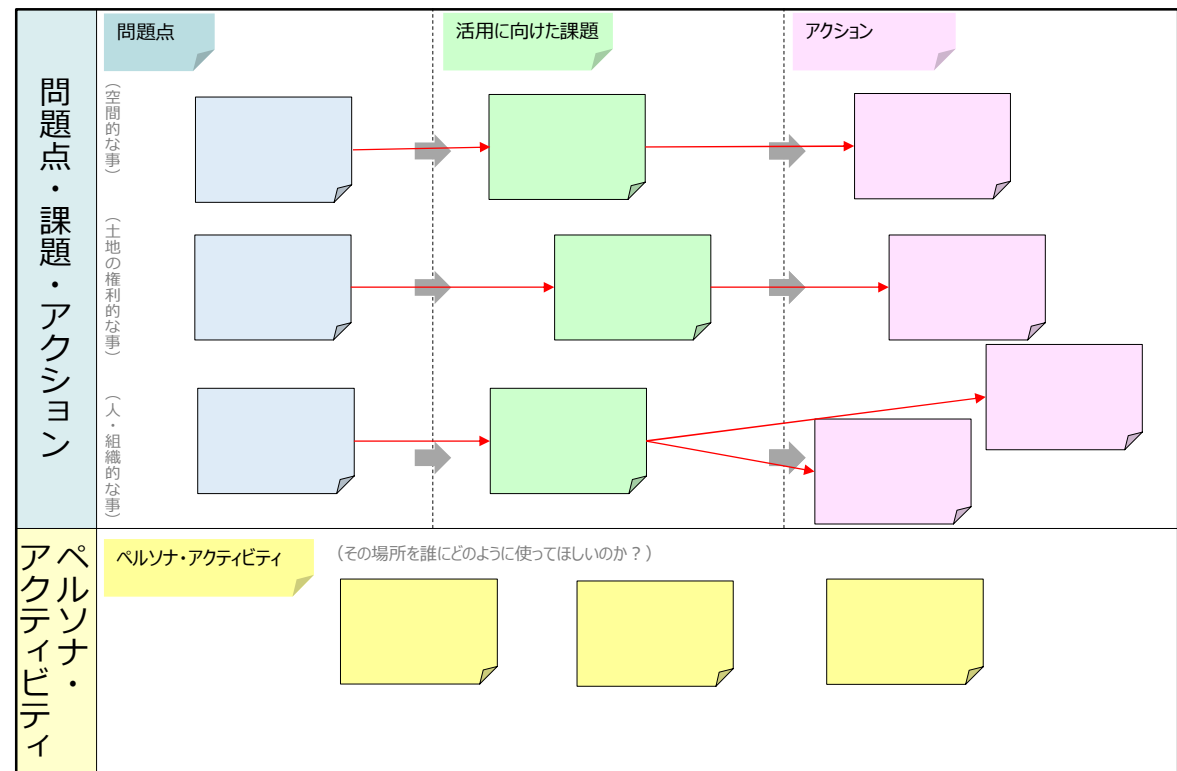
【WSの進め方】



グループワーク

- パワーポイントを活用し、ディスカッションを実施
- 書記は事務局にて対応、自治体は意見交換に集中

▼ワークシート (アウトプットのイメージ)



4. 第1回ワークショップ(令和4年2月28日)の概要

駅前商店街における賑わい創出に向けた取組の検討

笠岡市

- JR笠岡駅北側に位置する商店街(対象地)では、沿道店舗の後継者不足や大型商業施設の進出により活気に欠ける状況にあることから、**商店街の賑わい創出**に向けた取組を検討していきたい。
- 駅を境にした南北の分断解消や北側への観光客の回遊を促すため、観光スポット・商業店舗が充実している**笠岡駅南側との繋がりも意識する**。
- 区画整理事業や無電柱化事業よりインフラが整っており、駅にも近いという**土地のポテンシャルを活かしていく**。
- 対象地周辺の現況を踏まえ、今回は**市内在住の高齢者・市内に通学する高校生をペルソナ**として検討していくこととする。

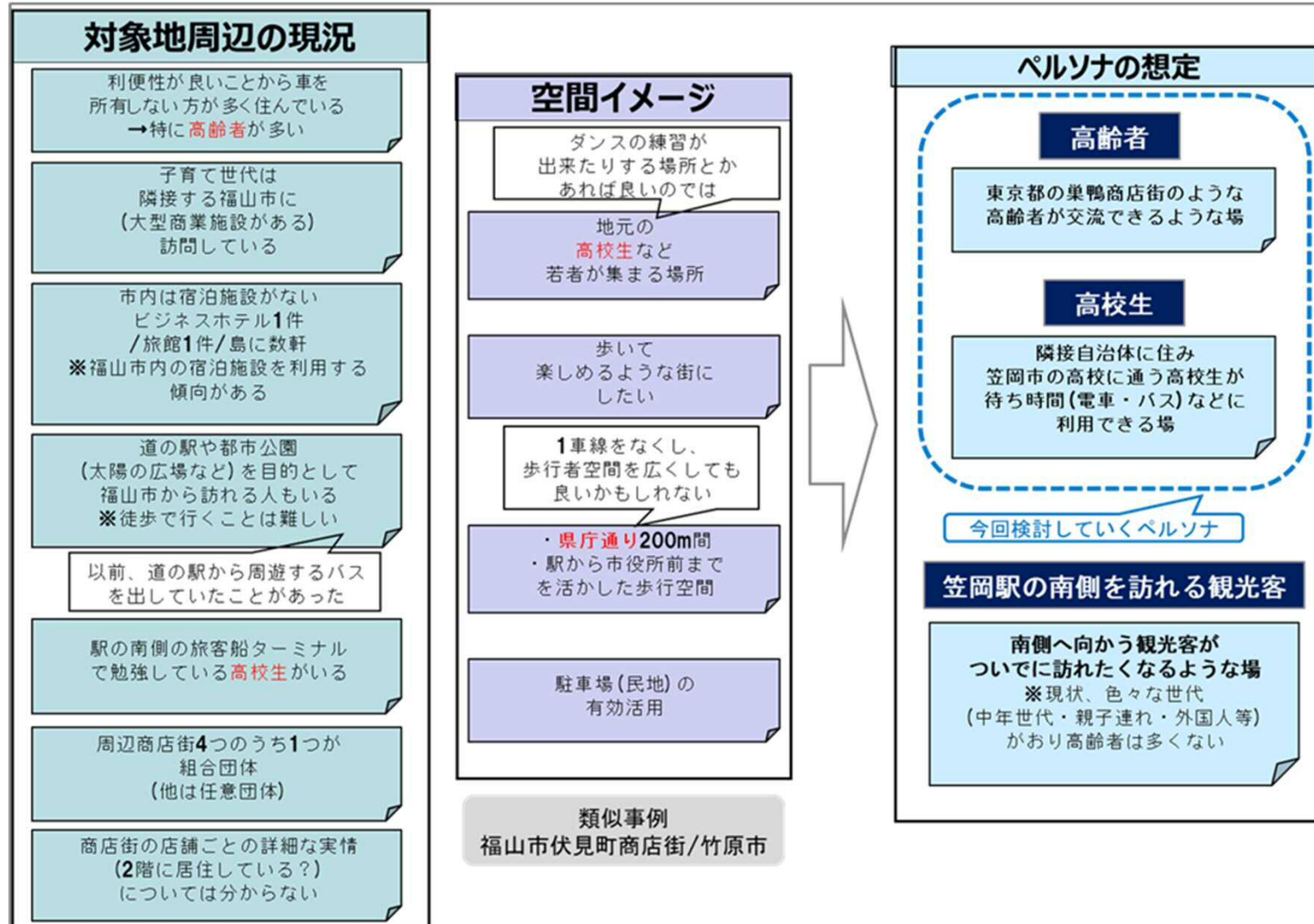


対象地 マップ図▶

4. 第1回ワークショップ(令和4年2月28日)の概要

ペルソナを設定して、その人の行動を促すための場所を突き詰める

笠岡市

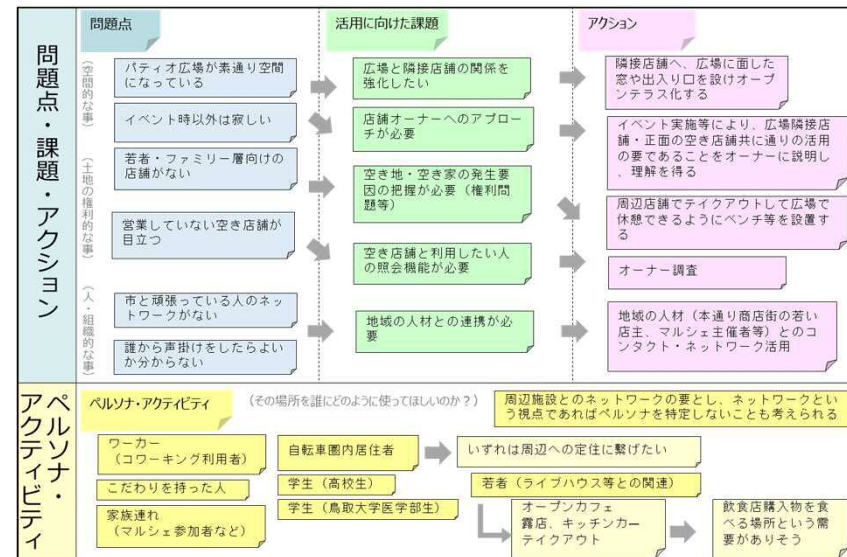
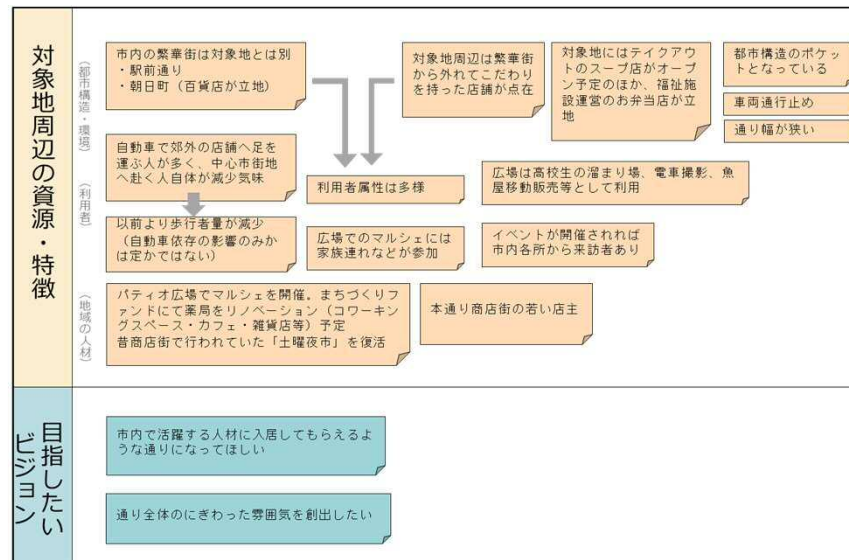


4. 第1回ワークショップ(令和4年2月28日)の概要

広場や空き店舗の活用から商店街全体への賑わい波及をめざす

米子市

- 元町通り商店街では、空き店舗の増加等、賑わいの衰退が課題である。商店街の中心のパティオ広場がイベント時以外は人通りのない空間となっているため、**日常的な賑わい**を生みたい。
- **パティオ広場に隣接する店舗との関係を強化**したい。例えば、広場に**オープンテラス等**を設置することで、広場の積極的な利用を促すとともに、**近隣飲食店のテイクアウト利用等**も想定し、地域一体となり、賑わいを生み出していきたい。
- **パティオ広場の対面にある空き店舗も活用**することで、商店街の賑わいの中心として周辺への波及を期待したい。
- 商店街や周辺地域で**活躍する人材と連携し、まちづくりの方向性を共有しながら、行政として支援**したい。

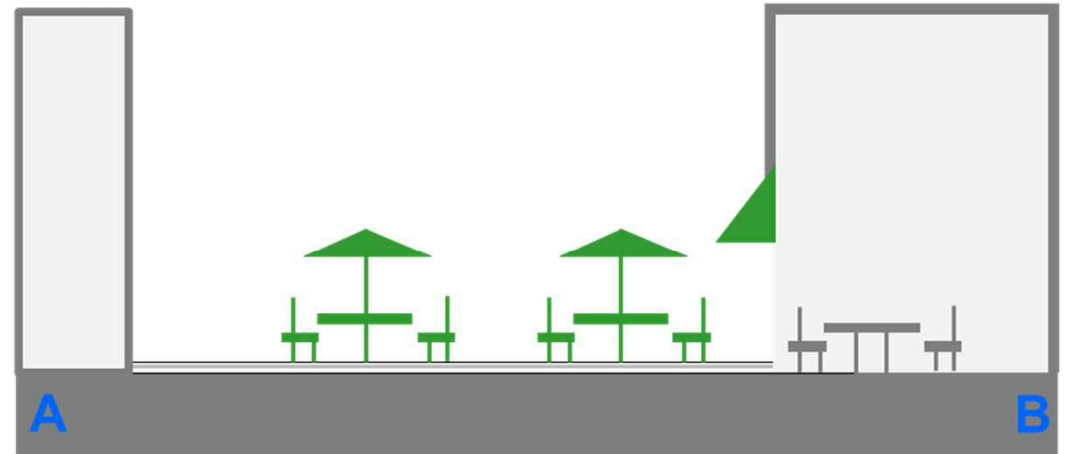


4. 第1回ワークショップ(令和4年2月28日)の概要

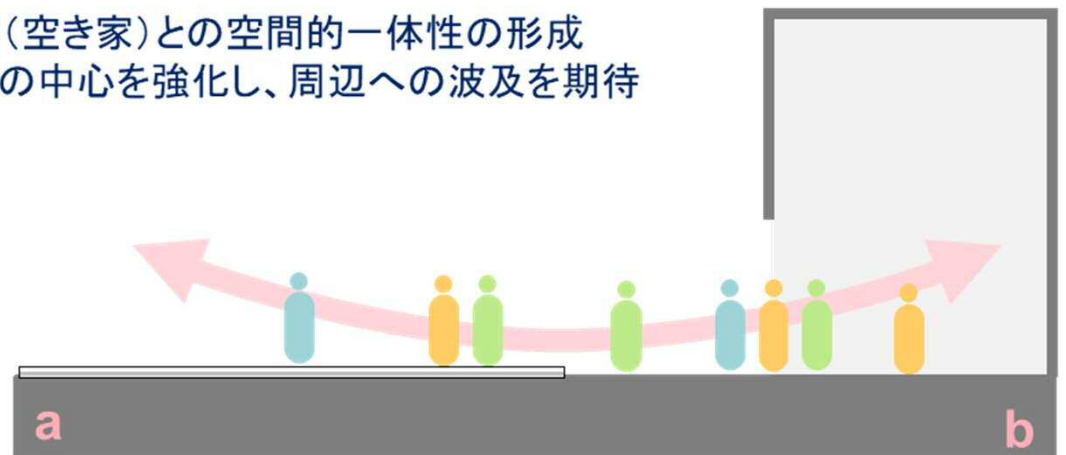
周辺店舗からのにじみ出しによる豊かなパブリック空間の形成

米子市

- ◆ 広場隣接店舗のにじみ出し(オープンテラス等)・
⇒ 近隣飲食店のテイクアウト利用等も想定



- ◆ 周辺店舗(空き家)との空間的一体性の形成
⇒ 賑わいの中心を強化し、周辺への波及を期待



5. 第2回ワークショップの概要 (グループワーク)

令和4年 3月9日

会場: 笠岡市 市民活動支援センター
(笠岡市: 対面 米子市: オンライン)

5. 第2回ワークショップ(令和4年3月9日)の概要

前回のワークショップを深度化し、具体的なアクションについて議論

第2回WSのプログラム

(笠岡市は対面、米子市はオンライン)

- グループワーク：2回
(途中で自治体相互の意見交換を含む)
(宋先生・氏原先生がそれぞれの自治体の議論に参加)
- 最終発表と専門家からのアドバイス



宋先生

- 地方では、公共空間を可変的に使い、沿道の店舗に波及させる展開が必要
- キーパーソンを大事にしながら、空間をつくる場所から一緒に取り組む
- WEBデザイナーが仲間にいると、いろいろな情報発信の可能性が広がる



氏原先生

- 空間活用ありきではなく、しっかりとしたコンセプトをつくるのが大事
- キーパーソンを見つけ、小さな取組でも良いので、長いスパンで進める
- 広場で住民とビジョンづくりを行うなど、地域の中での空間の位置づけを考えられると良い

- ▼対面でのディスカッション
(笠岡市は模造紙を用いて対面で開催)



- ▼オンラインでのディスカッション
(米子市はパワーポイントを用いてオンラインで開催)



5. 第2回ワークショップ(令和4年3月9日)の概要

WSに向けて各自治体が事前に検討した資料を用いて議論を実施

<p>グループ ワーク ②</p>	<p style="text-align: center;">ビジョン・プラン</p> <p>対象地の目指すビジョン（将来像）やプラン（空間の設え）を検討する 具体的なアクション（短期・長期の取組）を考え場所に落とし込む</p>
<p>グループ ワーク ③</p>	<p style="text-align: center;">仕組み</p> <p>短期のアクションについて、プレイヤー（主体）や役割、体制を設定する 行政としてできる支援・関わりを考える</p>

【WSの進め方】

事前検討結果の発表（参加自治体で事前にペルソナ・ビジョン・プラン等を検討）

↓

グループワーク② ⇒ 笠岡市は対面で、米子市はオンラインで、ディスカッションを実施

↓

中間発表・参加者相互の意見交換・専門家からのコメント

↓

グループワーク③ ⇒ 笠岡市は対面、米子市はオンラインにより、ディスカッションを実施

↓

最終発表・講評・アドバイス

5. 第2回ワークショップ(令和4年3月9日)の概要

駅前空間からスタートし、県庁通りや商店街にも賑わいを波及させる

笠岡市

- **駅前空間からスタート**し、長期的には県庁通り・商店街一帯にも賑わいが広がっていくことを目指していく。**歩行者空間の活用**のため、道路空間の再配分も検討できれば良い。
- 短期的には、沿道を**チャレンジ空間**として市内に通う学生や事業者にも利用してもらったり、駅前空間には**キッチンカー**や**オープンテラス**が**出店**できるようにしていきたい。
- 高校生とは駅前イルミネーションの制作で関わりがあり、その**繋がりを生かして一緒に取り組んでいければ**良い。
- 駅前の店舗の方々にもお声掛けをし、**まずは5店舗**程度手を挙げてくれると嬉しい。



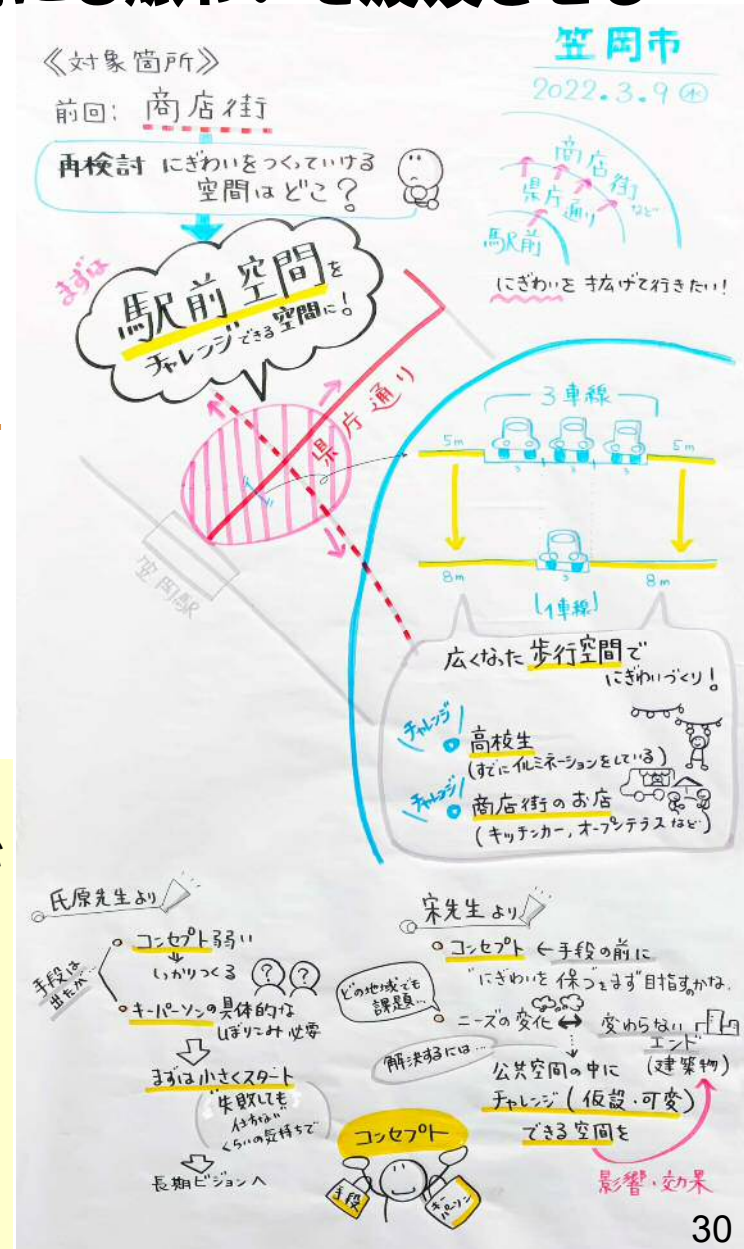
宋先生

- 手段を議論する前に、**コンセプトの設定**が必要
- **可変的な仮設スペースを用意**し、様々なチャレンジが出来る空間とすることで、沿道の店舗も地域のニーズに合わせて変化していくことが出来るのではないか



氏原先生

- 空間活用ありきになってしまっていて**コンセプトが弱い**ので、**しっかりとしたコンセプトを作ってもらいたい**
- **最初は小さく**取組を始め、失敗も考慮しつつ**長い気持**で続けて欲しい



5. 第2回ワークショップ(令和4年3月9日)の概要

キーパーソンと連携し、点在する音楽資源をきっかけに賑わいを生む

米子市

- パティオ広場を拠点に、**周辺の音楽資源を活用した賑わい**をめざす。
- 広場にストリートピアノを設置し、**日常的な音楽の空間**としたい。
- 廃校で処分予定のストリートピアノの修理やベンチの制作・設置から、地域の住民を巻き込み、**まちづくりの愛着を醸成**したい。
- 地域で**活躍する人材とコミュニケーション**を取り、一丸となってまちづくりを進めたい。
- まずは既に実施されている広場での**イベントに音楽要素を付加**することから始めてみる。



宋先生

- 具体化してきたので、あとは**実動するのみ**
- **キーパーソン**が地域で自由に活動できるような場所作りが重要
- 植栽等を活かした雰囲気作りもしては



氏原先生

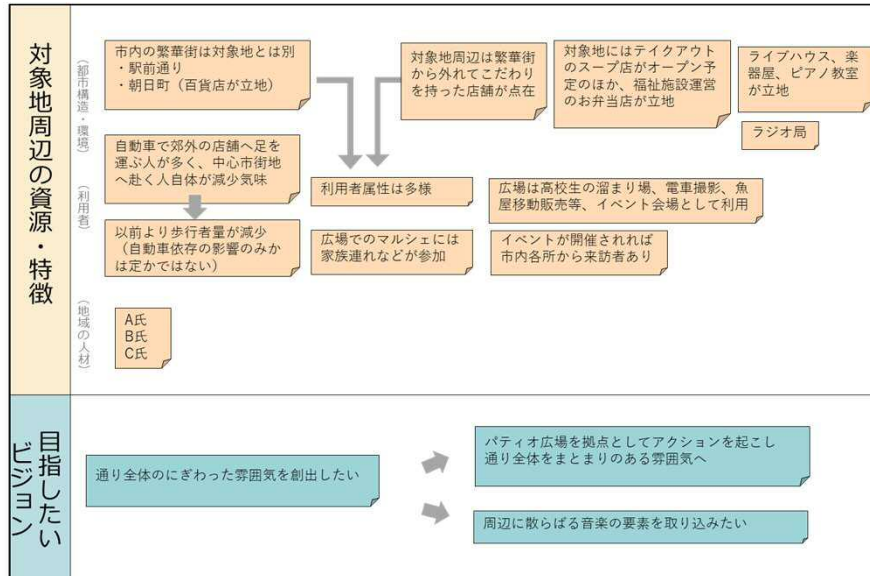
- 「**音楽で繋ぐ**」というところが、空間との親和性が高く非常に良い
- **ビジョンを作る過程**から地域の方々と一緒に考えていってみたいはどうか



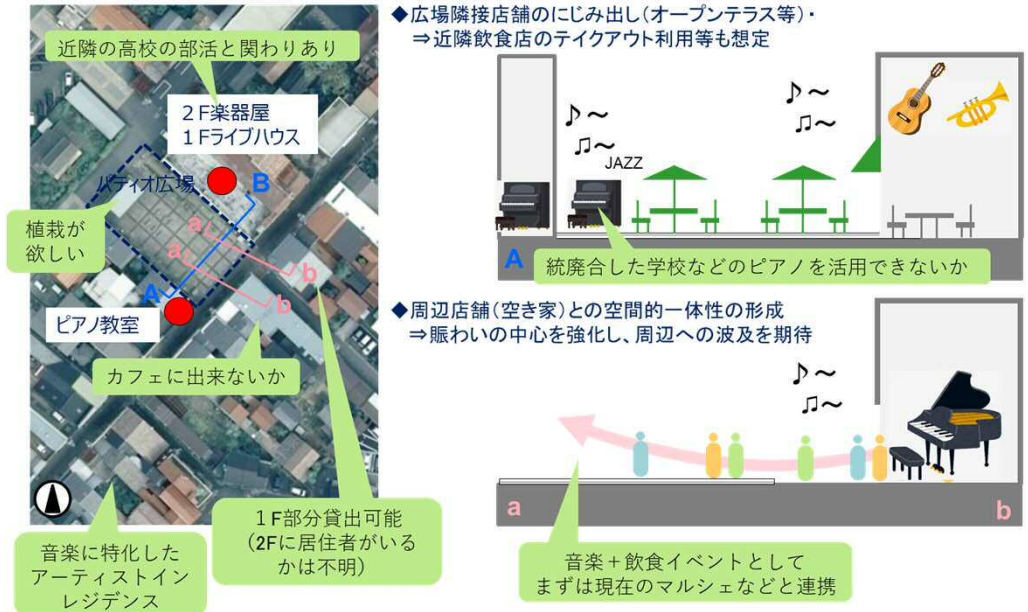
5. 第2回ワークショップ(令和4年3月9日)の概要

米子市 (ワークショップの成果)

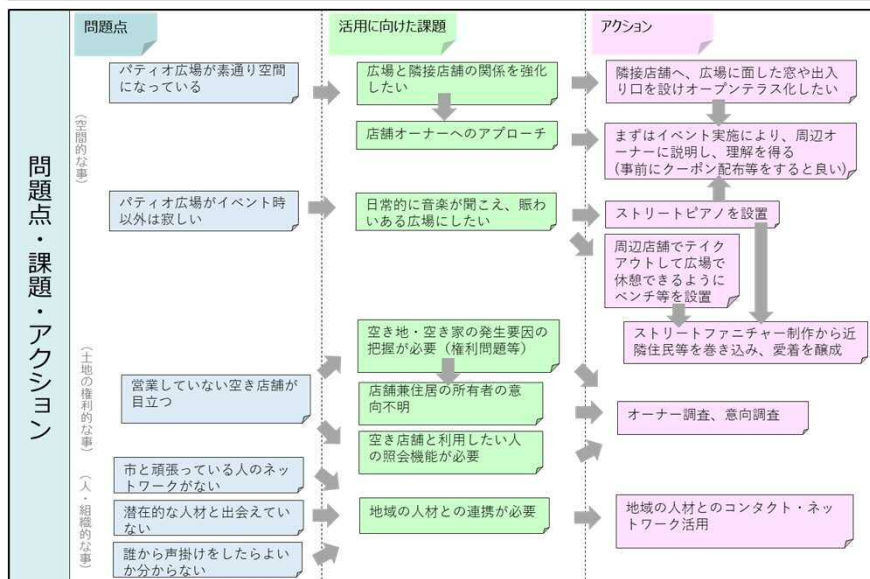
○取組みに向けた検討



○空間の活用に向けた取組み



○地域の人材との連携に向けた取組み



企画・運営	<p>A氏</p> <ul style="list-style-type: none"> 元町サンロード商店街振興組合理事 まちづくりファンド第一号申請者<市とは商工課関係で接点あり> 元町商店街内にWEB関係の事務所を主宰<ご主人の実家店舗を活用> <p>B氏</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本財団まちなか拠点よなご運営 米子高専卒
音楽関係	<p>【演者等】</p> <ul style="list-style-type: none"> サクソ奏者 和楽器店(本通り商店街) <路上に向けてライブを実施> パティオ広場隣の楽器店(学校の音楽系部活と関わりあり) 吹奏楽部 琴部(近隣の高校) 米子市ユースオーケストラ 米子がない太鼓 <p>【音響等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ライブハウス(イベント時の音響) <青年会議所からアプローチできる可能性あり>
(ストリートファニチャー)制作	<ul style="list-style-type: none"> 米子工業高等専門学校建築学科 米子工業高等学校建築コース

6. おわりに

6. おわりに

ワークショップお疲れさまでした。今後の取組を期待しています。

【笠岡市担当者より】

- ・駅周辺について、人口減少や少子高齢化などの課題が山積している。そこに対して賑わいづくりを取り組んでいかなければいけないという**漠然とした思いはあったが、具体的にどのように進めていけば良いか分からない**中でワークショップに参加した。
- ・先生方に貴重なご意見をいただき、**明確なビジョンを持って取り組むことが必要**だと感じた。
- ・素材になるものすらまだ見つけられていないが、**止まることなく今後とも賑わいづくりに取り組んでいきたい**。

【米子市担当者より】

- ・的確な助言などいただき、**今後の動きのきっかけになった**。何気なく通り過ぎていた商店街だったが、**素晴らしい人材がいて、ポテンシャルのあるエリアだと気づけて、非常に良い機会**になった。

【中国地方整備局より】

- ・自動運転の普及、小型モビリティの導入など、生活空間がどんどん環境が変化している状況。
- ・**状況の変化に合わせて繰り返し議論・検討をしていくことが重要**である。
- ・今回のワークショップを契機に、今後も議論を重ねていていただきたい。そのときに何かお困りのことがあれば、宋先生や氏原先生にご協力いただけることもありますし、自治体同士で交流していただいても良いアイデアが浮かぶと思います。
- ・もちろん中国地整もご協力させていただきますので、お気軽にご相談下さい。